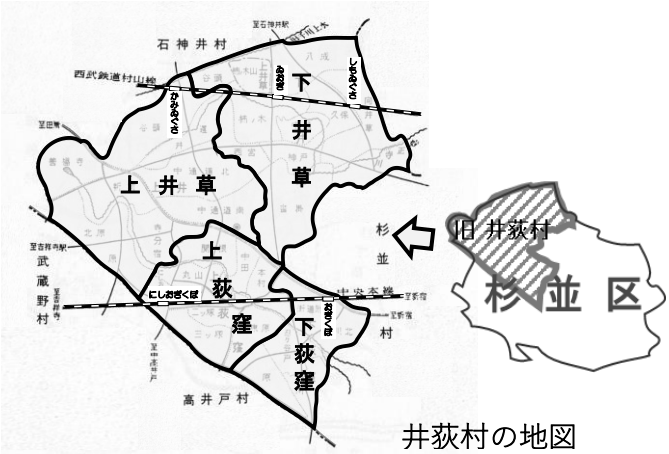
日本一若くして村長となった

内田秀五郎と町づくり

1　内田秀五郎を知っていますか？

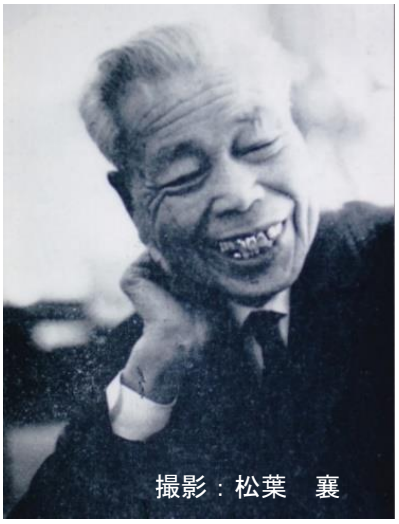
内田の喜寿を祝して善福寺公園に建立された銅像

明治以降、現在の荻窪地域（旧井荻村）は、武蔵野の農村から中央線の沿線を代表する住宅地へと大きく発展してきました。そこには、時代のニーズをいち早く的確に 読み取って、土地区画整理による道づくりや電気・水道 などの住環境を整備した。また、駅誘致、学校誘致、公園の造成などの町づくりを次々と進められました。これらの事業は内田秀五郎の偉業と語り継がれていますが、もし、彼がいなければ、今日の荻窪はなかったかもしれません。



井荻村の地図

現在の西荻窪北にあった内田秀五郎の生家



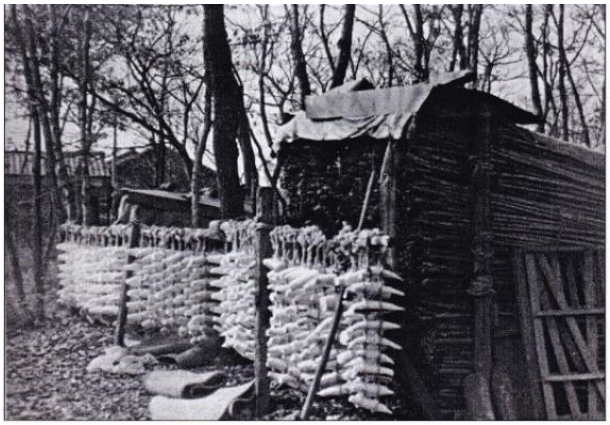
昭和 42 年、タウン誌「荻窪百点」の松葉襄編集長のインタビューに応える 92 歳の内田秀五郎

取材記事掲載号の表紙は、内田の事業の一つとして整備された善福寺公園ボート池（上池）撮影は松葉編集長（写真）

2　農家を豊かに

若い頃から人望に厚く、全国最年少の３０歳で井荻村の村長を担った内田秀五郎。　先ず、取り組んだのは農家の収入を増やし、暮らしを安定させることでした。そのために奨励したのが特産の大根を使った沢庵づくりでした。利益は生大根の３倍だったからです。また、倹約と貯蓄を奨励し、農家を支援するための購買貯蓄組合を設立しました。土地の発展に対応して東邦信用金庫となりましたが、現在の西武信用金庫です。

大根の収穫



沢庵漬けにするための大根干し

村長時代の内田秀五郎

昭和 14 年、井草八幡宮鳥居脇に淀橋青果市場荻窪分場を開設。　農家は野菜や薪を市中に 運ぶ労力を軽減した。

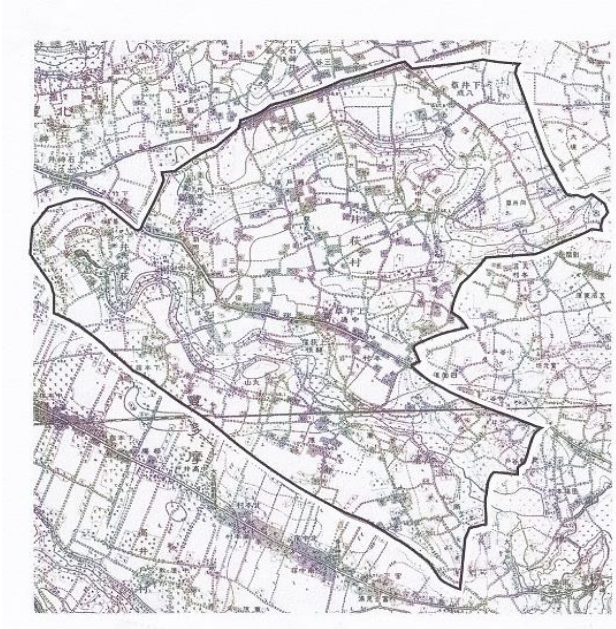
内田が組合長を務めた井荻信用組合。後の東邦信用金庫本店の建物（昭和９年竣工）

大正 15 年に新築の井荻村役場（桃井第一小学校入り口脇にあった）

３　井荻村の土地区画整理

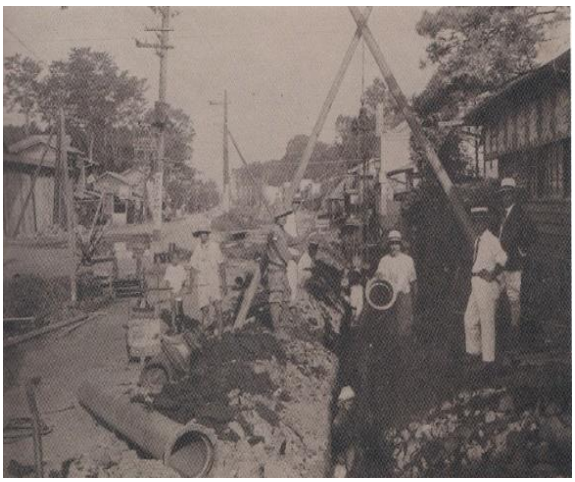
当時の内田には「道路村長」のあだ名がありました。道路改良に熱心で、反対が多かったが、内田は連日連夜、説得に駆け回り区画整理組合の設立にこぎつけました。計画の進みだした大正１２年、関東大震災が発災し、東京市内から郊外の井荻町に移住者が激増した。内田は新しい移住者の意見を取り入れながら、１０年の歳月かけて、全国でも例のない規模の土地区画整理事業等のまちづくりを完成させました。

トロッコで土を運ぶ土地区画整理の工事



土地区画整理前の井荻村地図（明治後期：まっすぐな道は一本もない）

土地区画整理の計画図（基盤の目状に道路が走る）



道路工事に追随して水道管の敷設工事

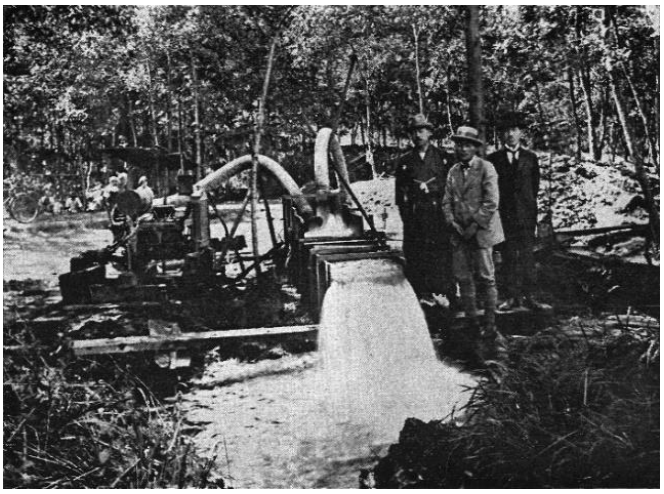
区画整理によって生まれた住宅地

４　電気、水道、郵便、電話

大正１０年に近隣の村に先駆けて井荻村に電気を引いた内田は、引き続き郵便局・電話局を開設、さらに、「土地区画整理の道路事業」になかった水道を移住者の要望をいれて、東京府議会で予算を得て事業化できたが、野党となったため事業は白紙となった。内田は、改めて町の水道化の必要性を議員に説得し、超党派で町営水道を完成させました。

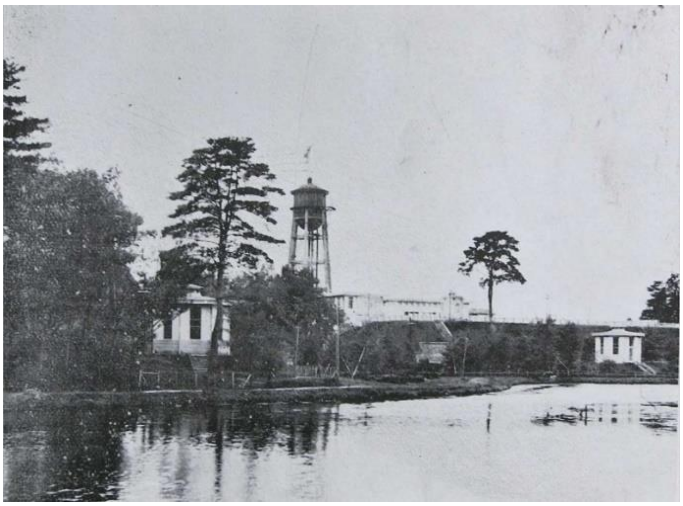
大正 11 年、内田によって荻窪最初の郵便局ができた。郵便局では電信・電話も扱った。

区画整理で道路が整備され、電柱に沿って家が建っていった。



町営水道の水源は三か所を試掘。水量が多く、水質のいい善福寺池畔を水源に選ぶ。
左端が内田秀五郎。

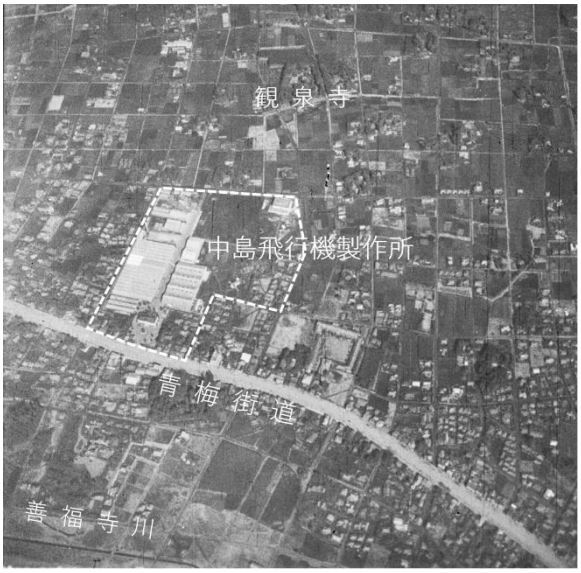
昭和27年に独立した電話局を開設。設計は山田 守。



町営水道のポンプ棟と給水塔。「夏は冷たく、冬は暖かい水」は荻窪の自慢になった。

5　中島飛行機東京工場の誘致

井荻村の町づくりの成功に、内田村長は大企業の誘致を目論みとしていた。事実、中島飛行機製作所の誘致は、村の総収入を上回る税収となり、かつ農家の二男三男の雇用確保となって、事業の成功へと導いた。その際にも、内田は公害のないよう契約をした先見の明が凄いところである。



中島飛行機製作所荻窪工場（点線枠内）

中島飛行機製作所荻窪工場本館

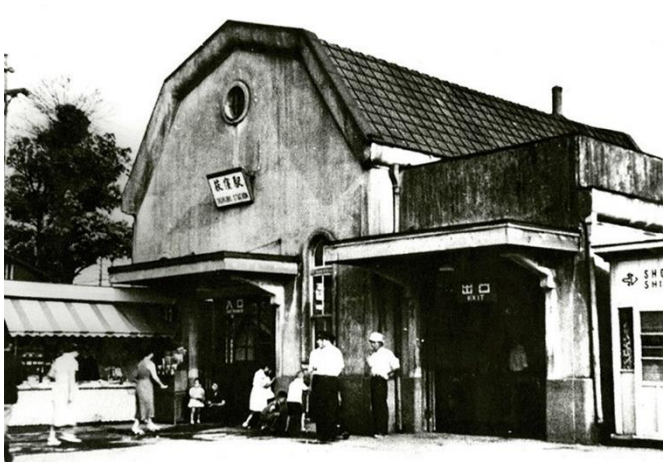
大正１４年に井荻村に誘致された中島飛行機製作所は、世界の名機とも言われたゼロ戦のエンジン「栄」を開発。米軍の爆撃を受けることなく終戦となる。企業として北は八戸から南は浜松まで軍需で巨大化した中島飛行機製作所に、連合軍の GHQ から解体を命じられ、１５工場それぞれが独立会社として民需の産業機械や自動車産業で再出発をする。
荻窪工場は、富士精密工業となって自動車産業に参入し、名車「スカイライン」や天皇御料車「ニッサンプリンスロイヤル」などを世に送り出した。特筆するのは、中島飛行機製作所設計技師であった糸川博士が、東大技術研究所とともに国産初のペンシルロケットの開発に成功し、この地に「ロケット発祥之地」の碑を残す。現在、マンション群と桃井原っぱ公園として、区民の憩いの場になっています。

飛行中のゼロ戦（ゼロ式艦上戦闘機）

中島飛行機製作所荻窪工場跡地

5　駅も、学校も

「駅は、町の発展に大きな影響力を持つ」と考える内田村長らは、大正 11 年、駅用地に自らも土地を寄付して中央線西荻窪駅を誘致。土地区画整理の最中に西武鉄道村山線（後の新宿線）が井荻町の北部を通ることになると、井荻町には、下井草と井荻の 2 駅を予定していた西武鉄道を説得して、３駅目の上井草駅の設置を認めさせました。また、東京女子大や都立農芸高校の移転に一役買ったのも内田でした。



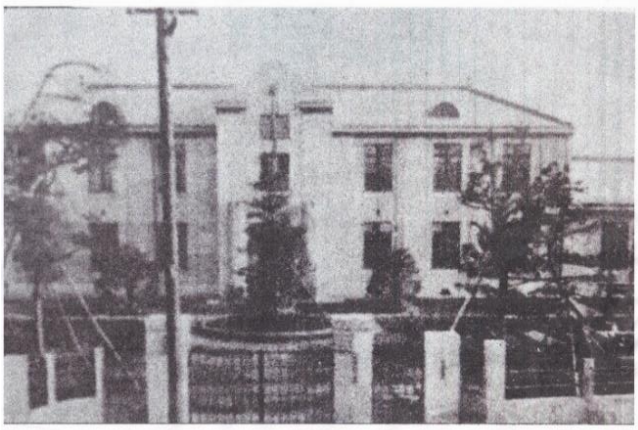
昭和 2 年の荻窪駅北口の開設にも内田は尽力。関東大震災後、移住者が急増するなか、北口は荻窪の発展に大きな貢献をした。

西荻窪駅

大正１１年、住民は新駅名を「井荻」か「井草」か、と互いに譲らず争いになったが、上荻に住んでいた有馬頼寧伯爵が「荻窪の西だから西荻窪」の一声で決まった。

上井草駅

内田村長は、遊園地を造り、乗降客を増やす条件で設置が認められた。

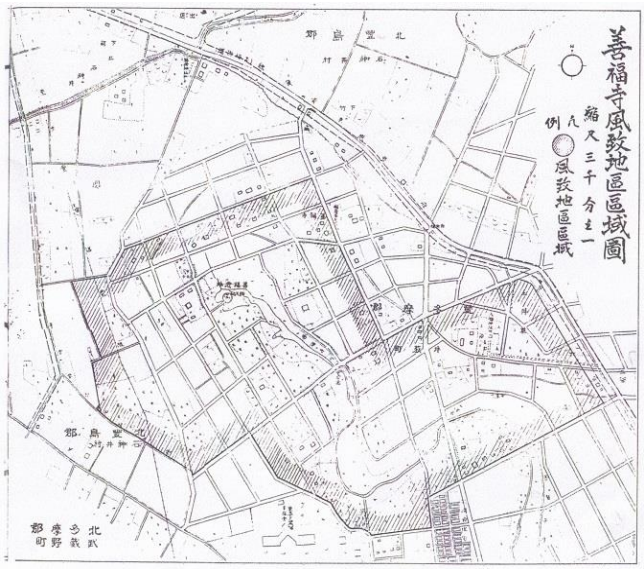


明治 33 年、中野町に創立の豊多摩郡立農学校を、大正１４年に東京府立農芸高校と改称して今川３丁目の地に誘致

大正 13 年内田が東京女子大学を誘致。本館は、帝国ホテルを設計したライトの愛弟子アントニン・レーモンド設計。文化庁の登録有形文化財に指定されている。

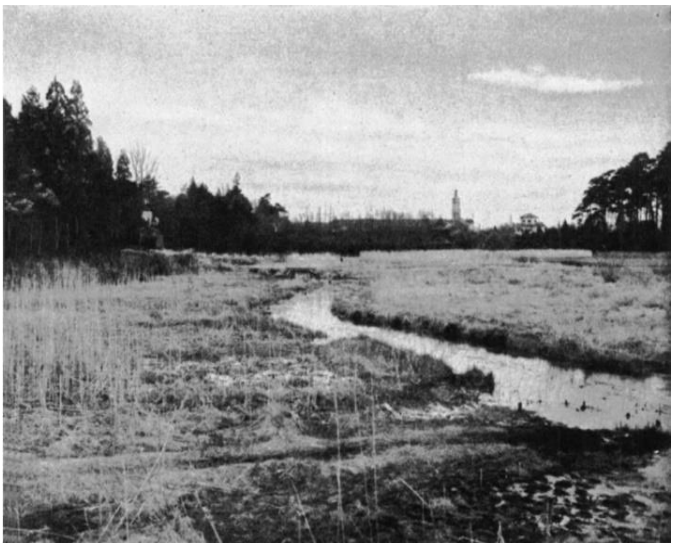
7　自然保護と風致地区

井荻村の土地区画整理は武蔵野の風景を一変させた。しかし、その一方で、「郷土の風景を守ることが私たちの義務であり、責任である」と考えていた内田は「森林に囲まれ、自然に恵まれた」善福寺一帯を環境を守る風致地区に指定しました。現在の憩いの場・善福寺公園のルーツです。



善福寺風致地区区域図

善福寺公園の上池の景観(昭和１２年)



善福寺公園下池の造園する前の湿地だった景観

現在の善福寺公園上池

現在の善福寺公園下池

8　内田秀五郎　年　譜

1876 年（明治　9 年）　上井草村に生まれる
1883 年（明治 16 年）　上井草村桃井学校（現杉並区立桃井第 1 小学校）に入学
1889 年（明治 22 年）　井荻村誕生（上井草村、下井草村、上荻窪村下荻窪村が合併・甲武鉄道開業
1891 年（明治 24 年）　桃井学校卒業・荻窪駅が開業
1897 年（明治 30 年）　家督を継ぎ、農業に専念する
1905 年（明治 38 年）　井荻村収入役に推挙され、村政に携わる
1907 年（明治 40 年）　井荻村長及び井荻村農会長に就任、村道の改修と村の財政の確立に尽力
1919 年（大正　8 年）　道路法が制定され、村内の道路を整備する
1921 年（大正 10 年）　井荻村に初めて電灯が点る、全戸に点るのは昭和 2 年
1922 年（大正 11 年）　井荻第一耕地整理組合が発足、荻窪郵便局が開局、西荻窪駅を誘致・開業
1923 年（大正 12 年）　井荻村で耕地整理事業を始める、関東大震災発生
1924 年（大正 13 年）　東京府議会議員に当選し、井荻村村長と兼務となる、荻窪電話局開局、
　　中島飛行機東京工場を誘致、東京女子大学が淀橋より井荻村に移転
1925 年（大正 14 年）　井荻村土地区画整理組合が設立され、組合長に就任
1927 年（昭和　2 年）　上井草駅、井荻駅、下井草駅を誘致
1930 年（昭和　5 年）　善福寺が風致地区に指定される
1932 年（昭和　7 年）　井荻水道が給水を開始、杉並区が発足
1934 年（昭和　9 年）　井荻信用組合本店（後の東邦信用金庫本店）が竣工される。
1935 年（昭和 10 年）　井荻町区画整理事業が終了
1939 年（昭和 14 年）　淀橋分場が開場し、東京新宿青果（株）社長に就任
1953 年（昭和 28 年）　喜寿を祝い善福寺池畔に銅像が建立され
1975 年（昭和 50 年）　逝去（享年 98 才）墓所は観泉寺

ごあいさつ

まちづくりに大切にしたいことは、まちの歴史を知ることです。それは、そのまちらしさのある町づくりになるからです。荻窪百点の会は、杉並区のまちづくりに、歴史の講座、写真展、出版物を通して貢献しています。

日本一若くして村長になった内田秀五郎の「荻窪まちづくり」は、杉並区区政９０周年記念をはじめ、これまで各企画で紹介されてきましたが、いずれも道路区画整理事業の紹介にとどまっており、一部で全てではありません。

今回の写真展は、タウン誌「荻窪百点」松葉編集長が、当時、淀橋青果市場理事長の現役であった９２歳の内田秀五郎を昭和４２年１月にインタビューし「荻窪物語」シリーズとしてまとめたものをベースに「松葉襄荻窪歴史写真コレクション」から構成して、わが国の歴史に残る偉業の全貌を初めて紹介するものです。

なお、この写真展の詳細はリーフレットにまとめましたのでご覧下さい。

監修・荻窪百点の会　会長・松葉　襄
制作スタッフ：松井和男、朝倉紘治、丸川英明、土屋光久、菅野康彦
上山博史、足立房子、中田久雄、淀川正進、三木　甫
問い合わせ　：０９０－４０２９－６１８８